

INTERVIEW

日本公認会計士協会東海会 柘植 里恵副会長

柘植 里恵 (つげ さとえ)

1990年3月、一橋大学商学部卒業。同年4月、監査法人トーマツ名古屋事務所入社。95年7月、公認会計士登録。99年1月、柘植公認会計士事務所開設(現任)。日本公認会計士協会 本部理事(2016年7月～現任)。日本公認会計士協会東海会 副会長(2019年6月～現任)など。

16年ぶりに名古屋で研究大会開催、テーマは「破壊、創造、継承。前例踏襲を打ち破れ。」 社会の変化に対応できる公認会計士協会へ

企業活動のグローバル化や、ICT、AI化による技術革新など経済社会は激変し、公認会計士の独占業務である監査業務も会計基準の改正などが進む一方、持続可能性も求められ、公認会計士法も15年ぶりに改正されたばかり。日本公認会計士協会東海会副会長の柘植里恵さんに話を伺った。

——東海会での副会長としての役割をお聞かせください。

柘植 東海会には会長の下、副会長は6名います。それぞれが色々な委員会を担当しておりますが、私は「広報委員会」「会計基礎教育推進委員会」「女性会計士活躍促進委員会」「社外役員会計士委員会」を担当しております。

また、2018年に協会本部でSDGs宣言を出しておりますが、地域会においてもSDGsへの貢献をすべく、各委員会を横軸を通して、東海会全体としてSDGsに貢献できるように、SDGs担当の副会長としての役割も担っています。

地域会の役割は、会員の皆様への様々な活動の支援と地域社会への貢献であると思っております。それぞれの委員会を通じてこれらの達成のために努力する所存です。

——広報委員会としてはどのようなことをしていますか？

柘植 東海会の広報には、大きく分けて対内広報と対外広報があります。

対内広報は、会報誌の発行やホームページを通じた会務報告や会員交流、対外広報は、新聞広告等を通じて、地域の皆様へ公認会計士を知っていただくための広報や、後進育成として大学生や高校生へ公認会計士という仕事を知っ